

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

第9回街づくり・持続可能性委員会

日時：平成31年3月25日（月）10時33分～12時02分

場所：虎ノ門ヒルズ（TOKYO 1、2）

○伊藤企画財務局長 それでは、ただいまから、第9回街づくり・持続可能性委員会を開催いたします。

冒頭の進行を務めさせていただきます、組織委員会企画財務局長、前任、中村の後を受けまして、昨年6月から企画財務局長を務めております、伊藤でございます。どうぞよろしくお願いたします。

今回の本委員会もメディアの皆様には公開とさせていただいております。また、カメラ・スチール撮影の皆様は、議題1の「ダイバーシティ&インクルージョンの推進」と「D&I宣言について」が終わりましたら、御退出をお願いしたいというふうに思っております。

なお、本日の委員会は、前回と同様になりますが、ペーパーレスにて行いますので、御不便をおかけすることもあるかもしれませんが、よろしくお願いたします。

それでは、開会に当たり、弊会事務総長の武藤から一言御挨拶をさせていただきます。

○武藤事務総長 それでは、座ったままで失礼させていただきます。

本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、どうもありがとうございます。

大会まで今日で487日。いよいよ我々はプランニングフェーズからレディネスフェーズに移行したというふうに思っています。6月からはテストイベントが始まります。これは来年の春まで3段階に分けてテストイベントが行われるわけですが、これは本番を運営するための知見を得るための訓練でございますので、もはやそういう非常に大事なフェーズに入ったということでもあります。

1年後の明日、3月26日は、いよいよ聖火リレーが福島県からスタートいたします。3月12日にギリシャで採火された聖火が、3月20日に松島基地に着きます。被災3県の各県を2日ずつ聖火が展示されると。これはオリンピック史上初めてのことなのですが、走っていない聖火が展示されるということで、26日から全国を121日かけて回ることになっております。

先週は、もう既に御案内のように、トーチのデザインが公表されました。材料はアルミでございますけれども、そのうちの一定部分は被災された避難住宅のアルミサッシの廃材を利用したといったような形になっております。

また、今日からは、実は我々事務方は晴海のトリトンに移ることになっておりまして、私の部屋も今、見てきましたけど、もぬけの殻という状態でございます。いわば、最後の会議がここで行われるということでございます。今、二千数百人が間もなく4,000人を超えますので、晴海のトリトンにその場所を確保して、4月から本格的にそちらに移行するということになりました。

本日は、この2018年の組織委員会の活動報告と持続可能性進捗状況報告書などが議題となっております。この報告書は、皆様の御議論を踏まえ、昨年6月に策定いたしました「持続可能性に配慮した運営計画」の取組状況をまとめたものであります。今回も活発な意見交換をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

○伊藤企画財務局長 ありがとうございます。

続きまして、本委員会の委員長であります、株式会社三菱総合研究所理事長並びに元東京大学総長の小宮山宏委員長から一言御挨拶をお願いいたします。

○小宮山委員長 おはようございます。

だんだん近づきますと、業務に追われて、サステナビリティなんてことは忘れてしまいがちですので、そういうことのないようによろしくお願いをしたいと思います。

ここまで皆さんの御努力で非常にいろんなことができてきていると思います。これからは、やはり体系化されたPRです。日本は、いろんなことをよくやっているのですが、PRが非常に下手で、そのために浸透しないということが多いため、ここからそこがポイントになると思います。

今までキラーコンテンツと言ってやってまいりましたけれども、例えば循環社会という中で、都市鉱山、今もメダルがキラーコンテンツでしたけれども、聖火のトーチもそういうのが入っているし、あちこちでスクラップをたくさん使うということがあるわけで、そういうものを体系化して、PRしていく。この間も、ニュースで30%のアルミがという、今、武藤さんがおっしゃった話が言われておりましたけれども、1回報道されただけでは残りませんから、それをどうやって残していくか、そのためにあちこちに書いたものを置こうと、できれば刻印もしていこうというようなことを申し上げているわけです。

私は、終わったら3カ国語で本を出すぐらいのつもり、サステナビリティ・イン・オリ

パラ2020、といったものを例えば3カ国語ぐらいで、ここには語学にあまりハンデのない人たちが結構いるわけだから、そういうものをつくるぐらいの気持ちで体系的にPRしていくということが、これからとても大事ではないかと思います。

以上です。

○伊藤企画財務局長 小宮山委員長、ありがとうございました。

それでは、次に、街づくり・持続可能性委員の変更について、お知らせをいたします。

日本政策投資銀行の地下誠二様が御退任をされ、新たに地下様と同じく日本政策投資銀行から杉元宣文様に加わっていただいております。

杉元委員、一言お願いをいたします。

○杉元委員 日本政策投資銀行の杉元と申します。どうぞよろしく願いいたします。

今も事後のPR等々、体系化の話もございましたけれども、街づくり・持続可能性につきましては、私どもレガシーという観点からも、スマート・ベニューという概念を間野先生と一緒にこれまでもいろんなレポート等により提唱してきておりまして、アクション&レガシープランにも盛り込んでいただいている部分があると聞いております。こうした観点から御意見申し上げ、参加させていただければありがたいなと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○伊藤企画財務局長 ありがとうございました。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

また、本日は、政府より臨時委員の代理とし、内閣官房、勝野美江参事官、東京都より臨時委員代理とし、オリンピック・パラリンピック準備局、田中彰運営担当部長に御出席をいただいております。

それでは、議題に入ります。

ここからの進行は、小宮山委員長にお願いをできればと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○小宮山委員長 それでは、議題に入ります。

お手元の議事次第を御覧ください。本日の議題は四つとなります。

まず、議題の1、ダイバーシティ&インクルージョンの推進とD&I宣言につきまして、事前に事務局から資料をお送りいただいておりますが、改めて組織委員会のD&Iの取組について、簡単に御説明いただけますでしょうか。

吉村さん、お願いします。

○吉村総務局次長 ありがとうございます。

それでは、総務局次長の吉村より簡単に御説明をさせていただきます。

まず、ダイバーシティ&インクルージョンの促進とD&I宣言について、次のページをお願いできますでしょうか。

こちらにございますように、まず目的でございますが、我々組織委員会では、大会ビジョンにございます多様性と調和を実現した東京2020大会の実現に向けて、ダイバーシティ&インクルージョンの推進が不可欠だと考えており、4年前に職員の代表が集まって、プロジェクトチームを立ち上げ、さまざまな施策について勉強をし、また計画をつくり、施策を推進してきたところでございます。

アクションワードとして定めているのが、これも職員のほうで検討いたしまして、「Know Differences, Show Differences. ちがいを知り、ちがいを示す。」、さまざまな違いについて理解を深め、それに対する対応、的確な対応をできるようになる。また、さまざまな違いのある方々たちが誇りを持って違いを示せるようになる。そのような実現に向けて、施策を推進しているところでございます。

具体的な取組について、次のページに一部紹介をしてございます。まず、D&I接遇・サポート研修においては、障がい当事者の職員が講師を務め、職員に向けて接遇やサポートにおける基本的な姿勢や方法の体系を通じて学ぶ、そういうような機会を設けてあります。まさに「ちがいを知り、ちがいを示す。」、そのような実現の一つの場として、この機会を活用しているところでございます。

また、D&I ハンドブックというものをつくりまして、文化や性、ライフステージ、それから心身機能についての違いを知り、また、理解を深めるためのさまざまな具体事例を集めたハンドブックをつくっており、全職員で共有をしているところです。

また、昨年10月には、LGBTの方々が職場において過ごしやすい環境を整えているかどうかというPRIDE指標に応募いたしまして、シルバー賞とベストプラクティス賞を受賞したところでございます。

次のページに行っていただきまして、本日、皆様にも御賛同いただきましたD&I宣言でございます。こちらは、昨年12月の人権週間において、我々組織委員会一同、特に幹部の森会長もここにございますように、森会長をはじめ幹部の方々も参加していただき、人権・ダイバーシティ&インクルージョンの推進の意識の向上とリーダーシップの重要性を再確認しようということで、D&I宣言イベントを行ったところでございます。

次のページをお願いいたします。こちらにつきましては、2月8日のアスリート委員会でも御賛同いただき、参加いただいたところでございます。それぞれポスターにサインをしていただくとともに、皆さんにステッカーをお配りしまして、いろんな身近なところに貼っていただき、D&I推進について、プロモーションをしていくと、そのような取組でございます。

簡単でございますが、以上でございます。

○小宮山委員長 ありがとうございます。

それでは、私たち街づくり・持続可能性委員会として、D&Iの趣旨に賛同し、宣言をしたいと思いますので、先ほど御説明のあったポスターにサインをさせていただきます。

(写真撮影)

○小宮山委員長 委員の皆様、御協力ありがとうございました。

それでは、スチール・ムービーの方は御退出いただきますよう、お願いいたします。

(プレス 退出)

○小宮山委員長 それでは、議題の2に入ります。2018年の組織委員会活動報告であります。

それでは、2018年の報告につきまして、事務局から御説明いただきます。

○伊藤企画財務局長 それでは、事務局から資料2に基づきまして、御説明をさせていただきます。

2枚めくっていただけますか。2018年の主な活動報告ということで、9点について、全体10分程度で駆け足にて御説明をさせていただければと思います。

最初に、競技会場の準備及び競技スケジュールでございます。各競技会場については、着実に準備が整っております。細かい小さな観点でいきますと、例えば工事に関わった業者の問題等ございましたが、全体としては大変順調に整備が進んでいるところでございまして、着々と今年中にはほぼ全ての会場が完成するというところで動いております。

次、お願いいたします。競技スケジュールでございます。こちらはオリンピック、次のページがパラリンピックでございます。全体の競技スケジュールのほうは、オリパラともに既に決定をしているところでございまして、今、最終のそれぞれの競技の中で、どの種目をこの日の午前中に行う、午後に行う、こういう細部の詰めをしているところでございまして、これも間もなく決定をさせていただきたいと思っております。

それでは、次、お願いいたします。開閉会式についてです。開閉会式については、野村

萬齋様をチーフ・エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクターとし、全体統括をしていただくということで、オリンピックは山崎貴様、パラリンピックは佐々木宏様に統括をしていただき、全体8名の体制で着々と今、準備も進めていただいているところでございます。それぞれ最終の今、詰めを検討していただいているところでございます。内容については、本当に直前までのお楽しみということでございますので、これからしっかり準備をしていただければと思っております。

次のページを御覧ください。冒頭、武藤総長の挨拶からもございましたが、聖火リレーについてです。1年後の3月12日にギリシャ古代オリンピア市で聖火の採火を行いまして、3月20日に宮城県の航空自衛隊松島基地に到着。その後、復興の火とし、宮城、岩手、福島での展示を終えた後、3月26日から福島県のJビレッジのほうでグランドスタートを迎えるということで、全国47都道府県を表にございますような日程で回ってまいります。

また、パラリンピックの聖火リレーについては、オリンピックが閉会した後でございますが、これはちょっとオリンピックとは違う形での聖火リレーの展開になりますが、開催都市東京都、またパラリンピックの競技開催県となつてございます埼玉、千葉、静岡において、トーチで火をつなぐリレーを実施していただきますが、この4都県を除く43道府県におきましても、採火などを通じ、多くの道府県で御参画をいただけるよう、今、準備を進めているところでございます。

次、お願いいたします。聖火台でございます。聖火台は、皆様、御案内のように、開会式で聖火がともされるということでございますけれども、開会式後は新しい国立競技場はそこで競技が展開をされる、備えつけの聖火台を置かないということでございますので、開会式後につきましては、大会期間中、もう一つの場所といたしまして、東京臨海部「夢の大橋」の有明側に聖火台を設置いたしまして、ここで大会期間中は点灯をずっとしてもらおうという2台を採用する方式とさせていただいたところでございます。

次、お願いいたします。大会マスコットにつきましては、大会史上初めて小学生が決定をするということで、全国の小学校に呼びかけ、投票で選んだ、このアのものが選ばれたわけでございます。

次のページを御覧ください。それぞれについて、オリンピックのマスコット、ミライトワ、パラリンピック、ソメイティということで、今、全国各地でオリンピック・パラリンピックのPRで動いて回っていただいております。小学生が選んだということで、子どもたちが、上から誰かから与えられたものではなくて、自分たちがこの決定に参画したのだと

いうことで、自分たちのマスコットであるということ、大会1年半前でございますが、大変広く人気を博しているところでございまして、今後もオリンピック・パラリンピックの機運醸成に向けて活躍をしてもらおうというふうに思っております。

次、お願いいたします。ボランティアに関する内容です。ボランティアに関しては、大会運営をお手伝いいただくボランティアについて8万人募集し、また、東京都はこれと別に3万人の都市ボランティアを募集したわけでございますが、8万人の募集に対して、全体で20万を超える大変たくさんの御応募をいただいたところでございます。

最初は、ボランティア、さまざまな条件の中で集まるかどうかというような不安の声も聞かれたわけでございますが、ふたをあけてみれば、日本各地から、そして世界からも多くの方に大変意欲的なアプライをしていただいたところでございます。現在、マッチング作業ということで、20万以上の多くの方に御応募をいただきましたので、それぞれの方の御要望をお伺いしながら、全員が活躍をいただけるということは、ちょっと物理的には難しくはなっているのですが、より多くの方々によりふさわしい場所で御活躍いただくよう、面談を通じ、マッチング作業を進めているところでございます。

次、お願いいたします。そのネーミングについても、実際にボランティアに応募した人たちに決めていただくということで投票した結果、大会運営については「フィールドキャスト」、都市ボランティアについては「シティキャスト」という名称にて決定させていただきました。

次に、大会のチケットについてです。次、お願いいたします。大会チケットについては、史上最大級のチケットングイベントということで書かせていただいております。プロ野球1球団の四、五年分のチケットを約1カ月で扱うということで、今、着々と準備を進めているところでございます。値段については、既に決定をさせていただいたところでございまして、これを踏まえて、基本的にはオンラインでの販売、特に当初、人気が高いものは抽選を受け付けて、抽選販売をするということで、今、その準備を進めさせていただいているところでございます。この春のうちに、夏前には一般販売を行いたいというふうなことで、着々と準備を進めているところでございます。

次に、機運醸成に向けた取組について、御報告をさせていただきます。機運醸成につきましては、この委員会からもさまざまな御指導をいただいているところでございまして、関連のイベント、東京2020参画プログラムということ、さらには、それぞれの季節ごとに2年前イベント、また、500日前イベント、こういうものを展開させていただいているとこ

ろでございます。内容については、後ほどまた簡単に説明をさせていただきます。

次、お願いいたします。大会のコアグラフィックス、色とデザイン、この統一感というものがそれぞれのオリンピック・パラリンピックを印象づけるものでございます。

東京大会につきましても、御覧いただいていますようなデザイン、そして5色の色を基調といたしまして、決定をしたところでございます。

次、お願いいたします。冒頭、小宮山委員長のほうからも御挨拶を頂戴いたしましたが、メダルプロジェクト、この委員会の御指導をいただいて進めていたメダルプロジェクトでございますが、これも大変多くの国民の皆様、また事業者の皆様の御協力をいただきながら、金、銀、銅、必要量につき、確保はできるという形になりました。金、銀、銅全て確保できたということで、この3月31日をもって、一旦このメダルプロジェクトとしては終了させていただきます。御協力をいただきましたこと、誠に感謝を申し上げます。

ただし、このメダルプロジェクトは一旦終了いたしますが、このメダルプロジェクトでつくりましたシステム、また機運というもの、多くの家庭に眠っている小型家電等から新しい金、銀、銅を採掘する、このリサイクルのシステムについては、今後も一つのレガシーとして広く定着するように、環境省等と連携をとりながら、今後もこの活動をより一層盛んになるように進めてまいりたいというふうに思っております。

次、お願いいたします。次は、メダルプロジェクトに関して、全国各地で行った取組を一覧にしたものでございますが、特に一番下、持続可能性公開授業ということで、環境省と連携をしながら、全国の学校でこのメダルプロジェクトを通じて環境について学ぶと、こういう事業展開をさせていただいたところでございます。

次、お願いいたします。これは、このメダルプロジェクトが3月31日をもって受け付けを終了いたしますが、その終了に対する感謝を込めますとともに、せっかくこのメダルプロジェクトで使った箱等がございますので、こういったものは、今後の後利用も含めて、さまざまな資源の回収に使ってもらうために、このシールを貼りながら、次の回収に向けて動き出したいというふうに思っております。

次、お願いいたします。次は、そのSDGsに関する内容です。まさに持続可能性の大会づくりということで、国連が提唱し、さまざまな取組を進めてございます17の目標、SDGsのゴールに向けて、私どもも大いに御協力をさせていただきたいし、一緒に機運を盛り上げたいということで、昨年、国連と連携協定を締結いたしました。写真は、アリソン・スミール様という国連の事務次長と私ども武藤事務総長との間で締結をしたものでございます。



今後、ますます来年度以降も国連との連携でイベントの開催、もしくは啓発活動というものに努めていきたいと思っております。

次、お願いいたします。これは、その取組の一つでございますけれども、「Be better, together」、これは委員の先生方が御指導いただいたものをこういった形で積極的にPRするというので、この2月10日にも朝日新聞社様と一緒に御協力をいただきながら、大学生向けのフォーラムを実施させていただく等、さまざまなイベントを4月以降も実施をする予定でございます。

次、お願いいたします。次は、映画の関係でございます。オリンピックの公式映画については、河瀬直美様に監督に就任をいただくことになってございます。

次、お願いいたします。復興に関する取組では、先ほど申しましたオリンピック聖火リレーのほか、球場では福島あづま球場や宮城スタジアムで実施をいたします。そのほか、ワールドプレスブリーフィングという形で、世界中から日本にプレスの方が大会の前の段階から準備でさまざまいらっしゃいますので、こうした方々を現地の被災3県のツアーを組んだり、食材の提供した夕食会を開催するなどしたり、復興に向けた日本の歩みというもの世界に発信をしてみたいと思っております。

次、お願いいたします。大会経費でございます。収支均衡と総予算が大きくなならないようにということを念頭に置きながら、新しい大会経費を昨年の暮れに提示をしたところでございます。

次に、参画プログラムの現状について、ごくごく簡単に御説明をいたします。

次の次、お願いいたします。参画プログラムでございますが、東京や首都圏だけではなくて、全国に本当にたくさんの活動が広がっているところでございます。今、緑のところ、人口の問題もございますので、鳥取県だけちょっと緑ということでございますけれども、これもかなり数が増えてございまして、全国が黄色からオレンジ、赤にどんどん活発なさまざまな参画活動が展開をされているところでございます。この3月時点で約10万件近くまでアクションが認証されたということでございます。その中には、事例といたしましては、次のものをお願いいたします。

内閣官房が行ってございますホストタウンの中のアクションということで、ホストタウン登録自治体のほうでもさまざまな取組をしていただいております。

その次、伊豆では、ユニバーサルツーリズムの研修会というものも展開をしております。

その次、お願いいたします。持続可能性の観点では、スポーツのごみ拾いの大会、こういう形も展開をさせていただいてございます。

次、お願いいたします。日本の木材活用リレーということで、選手村につくりますビレッジプラザについては、全国各地からの木材を御提供いただきながら、大会後はこの木材を伐採したもとの自治体に戻して、再利用していただくということで、里帰りをしていただきながら、例えば学校のベンチなどにそれが変身をして、子どもたちに再利用の重要性というものと「オリンピック・パラリンピックにこれが出たのだよ」と、選手がここでさまざまな活動をしていただいたのだよということを御理解いただくようにということを狙った取組を進めているところでございます。

次は、先ほども申しましたSDGsの関係で、大学生と考える次世代のレガシーというものを展開もさせていただいてございます。

以上、すみません、参画プログラムの現状も含めて、ちょっと駆け足でございしますが、御説明をさせていただきました。

○小宮山委員長 ありがとうございます。

それでは、ただいまの御説明につきまして、御質問や御意見ございましたら、遠慮なくどうぞ。

それでは、特にないようですので、議題の3、東京2020参画プログラムの現状等について、御説明ください。

○伊藤企画財務局長 すみません、ちょっと私が飛ばしてしまって、今、両方あわせて説明をさせていただきました。

○小宮山委員長 それでは、含めまして、御質問はございますか。どうぞ。

○田中委員 すみません。その前の話かもしれないのですが、オリとパラ、かなり同じような形でいろいろやっていただけるのは、すごくありがたく思っております。

ちょっと1点質問なのですが、映画、オリンピック関係の映画ができるようなのですが、パラリンピックについても何か企画等がございますか。1964年のパラリンピックの大会、かなりやっぱり歴史的な映像もありまして、IPCなどでも公開されているので、ぜひ、ちょっと検討いただきたいと思っているのですが。

○伊藤企画財務局長 すみません、説明を少し省略させていただいてしまったので、申し訳ございません。

今、御紹介をさせていただきましたように、オリンピックの公式映画の監督が決定し、

就任をいただいたということで御説明をさせていただきました。オリンピックについては、各大会において、公式映画を必ずつくらなければならないと義務化されていて、IOCの指導のもと、こうした取組を展開してございます。

パラリンピックについては、そのような決まりがなく、これまでの過去の大会においても、オリンピックはつくっているけれども、パラリンピックはつくっていないという状況がございます。

しかしながら、私どもは、オリンピックとパラリンピックについては、できる限り同じような形で展開をしていきたいというふうにも思っておりますので、映画の位置づけが両大会でIOC、IPCでそれぞれ異なっているものですから、つくり方としては少し手順の違いというものはあるわけですが、やはりパラリンピックについても、しっかりとした記録を残して、それをより多くの方々に見ていただくような工夫というものをしていかなければいけないというふうに思っておりますし、そのことは今、検討をさせていただいているところでございますので、また、検討が進みましたら、改めて御報告をさせていただければというふうに思っております。

○小宮山委員長 ほかにございますか。

どうぞ、マリさん。

例によって、御意見がおありの方は立てていただきましょう。

○マリ・クリスティーヌ委員 SDGsについてなんですけれども、網羅されていないような気がするのですね。なぜかという、協定もせつかく結ばれているのに、先ほどのメダルに関しては、今、見たら12と17だけで終わっているのですね。だけど、9がすごく大事で、それがマニファクチャリングであったり、日本のテクノロジーをここにメダルをつくって、こうやって回収することの中であるわけなので、そういうところが入っていなかったり。

あとは、インクルーシブといったところで、やはり11番、これはSustainable cities and communitiesというのは、コミュニティがまさに障がいを持たれている方々が持続可能な都市で生活し、バリアフリーであったり、または、いろんな形で彼らもちゃんと参加、普通にできるようなことの中で、make cities inclusive, safe and resilientというのがすごく大事な項目なのに、11番がそこに出ていなかったり。

あと、先ほどの木の回収ではあるのですけれども、木材を回収するという事の中で、13とかというものもすごく大事なのですね。地球環境のことについても。

だから、もっと上手にこのSDGsを取り組んでいかないと、ストーリーが、ちゃんと恐らくディスカッションの中であまりたくさん入れちゃいけないという話になったのかもしれないのですが、そのポイントのところをもうちょっと発表されたりするということが、すごく大事なことでないかと思います。

○小宮山委員長 今回の内容は非常に重要です。最初に私が挨拶で申し上げた体系化したPRが必要ということの象徴的な話ですよ。

メダルプロジェクトはとてもいいプロジェクトなのです。都市鉱山ということで、極めて重要です。これは鉄とかでも本当はやりたいのだけれども、メダルでできたということは非常にいいことで、これはもうインクルージョンとかダイバーシティとか、今、マリさんが言われたように、ほとんどのSDGsと関係する極めて象徴的なプロジェクトです。この辺のことは、PRのグループでもつくって、体系化したほうがいいと思います。

○伊藤企画財務局長 ありがとうございます。

大変申し訳ございません。私ども、確かにメダルプロジェクトの右肩に12、17みたいなマークだけを載せて、まるでそれだけのものであるかのように印象づけてしまっています。わかりやすいようにという思いもあったのですが、逆にそのことがわかりを難しくさせてしまっていたり、矮小化してしまったり、というイメージがあるのではないかというふうに思っております。

○小宮山委員長 体系化しなければならないのです。いろんなことを体系化していかないと。

○伊藤企画財務局長 ありがとうございます。

○小宮山委員長 どこかのまとまったグループにやっていただいたほうがいいです。SDGsとの対応というのも一つです。

それでは、野城さん。

○野城委員 最後ですから。

○小宮山委員長 今回の関連ではないのですか。

○野城委員 わかりました。

じゃあ御参考までに申し上げますと、私はISOの規格づくりをお手伝いしているのですが、ISOの本部からSDGsのどれに、おまえたちが規格をつくっているのは関係があるか、マトリックスをつくれということで、各グループで単純に自分の使っている規格、SDGsの17の目標のマトリックスをつくらせているのですが、まずは、小宮山先生がおっしゃった

体系化の第一歩としては、今やっているアクションと17の目標がどう関連があるか、プロ  
ットティングするところから始まれば、それが体系化の第一歩だと思いますので、おやりに  
なったらいかがでしょうか。

○小宮山委員長 ありがとうございます。

そういう意味です、私が申し上げたのは。ぜひやってください。

○伊藤企画財務局長 はい。わかりました。

○小宮山委員長 鎌田さんが早かったでしょうか。

○鎌田委員 今、マリさんのほうからも出たのですが、メダルとか、すごく世界に向けて  
もう本当に都市鉱山から出てくるという非常にやっぱりインパクトが強い施策だと思  
いますし、木材の利用もこれだけにとどまらず、建築物でも相当多分、今回、取り込まれて  
いらっしゃいますよね。何かそこら辺もきちんとアピールできる。

そして、また日本が木材としても、今、輸入国になってしまいましたけれども、やっぱ  
りもともとこれだけの森で、木材を持っていたというところをPRできるいい機会なんじゃ  
ないかなと思っております。

さらに、ここまでメダルと木材で頑張ったのであれば、大会の費用を見ても、いろい  
ろな消耗品とかで物を使っていると思うのですけれども、プラスチックであるとか、紙とか  
布とか、いろいろな消耗品の類いが今回切り込めたのか、切り込めていないのか、ちょ  
っとそこはわからないのですが、もし、そこら辺までもう少し、特にプラスチックの問題は  
入り込めると、大きなポイントになるのではないかなと思っていました。

もう一つ、ちょっとこれはお伺いしたいことなのですが、この会議の中でも食の議論が  
されたことがあったと思います。調達コードの検証のときだったと思いますけれども。そ  
のときにいろいろな、野菜も肉も、そして海産物もなかなか調達コードを満たせないとい  
う話があったと思うのですが、そのまま1回の議論で立ち消えてしまったように思うので  
すが、これから日本がもっと食材や何かも輸出していく。そして食品だけではなく、レス  
トランや飲食や何かそういった部分もどんどん世界に広げていくという意味では、今回、  
日本の食を知っていただくというPRもぜひ、調達コードとどう絡むのかというのは難しい  
ことかもしれないのですけれども、安全性を含めて、やっぱり福島の問題はまだまだ輸入  
の規制がある国もたくさんありますので、そういった部分でもPRに入っていけると幸せだ  
なと思いました。

○小宮山委員長 ありがとうございます。

木材、食料、プラスチック。多分、ごみゼロはやるのでしょうか、現場では。

○荒田持続可能性部長 持続可能性部長の荒田でございます。

はい。ごみのゼロ・ウェイティングに向けては、さまざまな取組をしていく予定です。

○小宮山委員長 そうですよ。

○荒田持続可能性部長 今お話のあったプラスチック、紙についても、しっかり取り組んでいく予定でございます。

○小宮山委員長 わかりました。

そこら辺とも関連して、ごみゼロは日本にとっては絶対キラーコンテンツの一つになるのです。ぜひ、お願いしたいです。

藤野さん、お願いします。

○藤野委員 ありがとうございます。私もトーチのデザインに関わらせていただいたので、そのアルミのスクラップを復興の場所のスクラップを使ってというところで、メッセージがより出せたらなと思います。

実は、その後、北京2022大会の持続可能性を担当する精華大学の先生とかも私のほうにヒアリングに来て、ぜひ、東京大会のことを学びたいということなので、小宮山先生がおっしゃった本を出すというの、ある程度、早く出さないといけないのかな、なんていうことを思いました。

その調達コードなりの先進性もあるのですが、一方で、今後、さらに国際上の批判みたいなのもひょっとしたら出てくるかもしれないというところで、攻めの広報戦略も必要だと思うのですが、そういった批判があったときに適切に守りをしていく広報戦略も必要だと思いますので、その辺りについて、大変だとは思いますが、守りながら攻めるというところも御配慮いただけたらと思います。

○小宮山委員長 ありがとうございます。

崎田さん、どうぞ。

○崎田委員 ありがとうございます。今、藤野委員から守りながら攻めるというお話があって、私も今、そういう発信をしっかりやっていくという中に、やはりこの持続可能性の分野でどういうことをやっているのかということをもう少し丁寧に出していくということがすごく大事なんじゃないかというふうに思っています。

どういうことかというところ……、詳細の説明はまだこの後ということですかね。今、説明は前半の説明でしたから。

○伊藤企画財務局長 はい。この後、また持続可能性の報告書についての。

○崎田委員 そういうことなのですよ。

○小宮山委員長 後半の議論に入ってきているようですね。

○崎田委員 そうですよ。まだ今これは前半で、トピックの話で、後半、体系的にどうやったのかというところがあるのだと思います。それで……。

○小宮山委員長 すみません、私の司会が悪かったです。

○崎田委員 いやいや、そういう意味じゃなくて。ですから、そこで、またじっくりと議論をさせていただければありがたいかなと思いました。じゃあ、もう一回、後で発言します。

○小宮山委員長 ありがとうございます。

勝野さん、いかがですか。後のほうが良いのであれば、後でもいいです。

○勝野委員 手短に。ありがとうございます。

木材、食材、あと、プラスチックの問題など、御指摘をいただいてありがとうございます。

大きな流れ、国のほうでもSDGsに関しても、総理のもとに推進本部を設けまして、検討を進めておりまして、この東京オリンピック・パラリンピックをSDGs大会にしていこうということで、政府としても全面的にバックアップをしていきたいという方向性にありますということをお報告させていただいて、レポートのほうにも前文などにそういったことを位置づけていただいているというふうに承知しております。

また、食材のほうも、今年の秋に、私ども国として、各全都道府県に調査をさせていただいて、ある程度、調達基準を満たした食材は、日本全国には存在することはかなりの数あるということは調査しております。ただ、それが価格とか、さまざまな条件がございますので、どうやってそれを提供していくかという段階に今入っているかというふうに承知しております。

いずれにしても、この大会、SDGs大会ということで、国のほうとしてもしっかりと支えていくという方向にあるということをおコメントさせていただきます。

ありがとうございます。

○小宮山委員長 わかりました。

そうすると、ぜひ、さっき言った体系化、アクションとSDGsというのはグループをつかってやったほうがいいですね。

○勝野委員 承知いたしました。ありがとうございます。

○小宮山委員長 ぜひ、お願いしたいと思います。

ほかに何かございますか、今の段階で。

よろしければ、議題の4に入りたいと思います。持続可能性進捗状況報告書に関しまして、事務局から御説明ください。

○荒田持続可能性部長 失礼します。続いて、資料6でございます。44ページになります。持続可能性進捗状況報告書の概要でございます。

次のページを御覧いただきまして、昨年3月にこの委員会で持続可能性に配慮した運営計画について御議論いただきましたが、これは、先ほどもお話もありましたとおり、6月に公表されました。振り返りとなりますが、「Be better, together」という持続可能性のコンセプトのもと、気候変動、資源管理など、五つの主要テーマ、丸で囲んでいるところでございます、を設け、それぞれ具体的な目標や目標達成に向けた施策を掲げたところでございます。

次のページ。その後、持続可能性計画などに基づいて、大会準備をこれまで進めているところでございますが、IOCからも求められていることもあり、今後、報告書を3回発表する予定でございます。今回、御報告申し上げるのが第1回のものに当たる進捗状況報告書、赤い四角で囲っているところでございます。これを3月末に発表いたしたいというふうに考えております。

計画発表が昨年6月と申し上げましたが、そこから9カ月という短い時間であります。既に持続可能性ディスカッショングループでは、今年度2回、テーマ別のワーキングでも数回御議論いただいたところでございます。この委員会では初めてとなりますので、改めて御説明いたしたいと思っております。

次のスライドを御覧ください。6月に発表した持続可能性運営計画の五つのテーマを中心に、今回の報告書では、調達ですとか会場整備についても触れたところでございます。冒頭には、本委員会の小宮山委員長からのメッセージも頂戴し、掲載させていただいております。

次のスライドです。以降は、本報告書の目玉となる八つの取組の成果を抜き出して御説明さしあげたいと思います。その後、全体を網羅して御説明いたします。

まず、一つ目でございますが、メダルプロジェクトにつきましては、先ほども御紹介したとおりでございます。企業と皆様の御協力を得まして、必要量を確保できる見込みとい



うことでございます。本当にありがとうございました。

次のスライドを御覧ください。ビレッジプラザについても御紹介さしあげましたが、選手や家族の憩いの場となるような場所でございます。自治体からお借りした木材で建設をいたします。まだ着工はしておりません。ちなみに、これは全て持続可能性に配慮した木材で調達されております。大会後は各自治体へお返しし、公園のベンチなどに活用される予定でございます。

次のスライドを御覧ください。組織委員会としては、初めて、ILOとディーセントワーク、働きがいのある、人間らしい仕事に関する覚書を結びまして、秋にはサステナビリティ・フォーラムを共催したところでございます。

また、昨年12月のCOP24におきまして、国連気候変動枠組条約とIOCのリードのもと、Sports for Climate Action Frameworkという国際的な枠組みが発足しましたが、これに組織委員会は、発足当時から参加することといたしました。

次のスライドを御覧ください。四つ目でございます。ゼロ・カーボンへの取組を進めているところでございますが、組織委員会としても、削減活動や再エネ電気の活用を進めてまいります。オフセットについても今年度、動きがありましたので御報告申し上げます。

東京都及び埼玉県の排出量取引制度の対象事業者から、都や県を通じてオフセットクレジットを協力していただく仕組みでございます。また、市民参加型のCO<sub>2</sub>削減・吸収活動についても、7月から募集を開始したところでございますが、こちらの方はあいにく実績が少なくございますので、これから周知をしっかりと図っていきたいというふうに思っております。

次のスライドを御覧ください。五つ目でございます。調達でございます。組織委員会が調達する物品やサービスについて、調達コードを定めておりますけれども、昨年6月に最後の個別基準である紙とパーム油について策定し、これで六つの基準が調ったということになります。

組織委員会が調達コードを最初に作成したのがおよそ2年前でございますが、その後、持続可能性に関する認証を取得する事業者が増加しております。

調達コードの不遵守につきまして、通報受付窓口を4月にスタートさせましたが、こちらはまだ十分周知がされていないのではないかと、また、特に通報者となる国の言語で周知されていないのではないかとというような御意見もあったため、日英に加えて、中国語など、全6カ国語でフライヤーを作成しております。右側の水色のものがフライヤーでござ

います。

六つ目でございます。競技会場について。ハード整備は比較的早い段階から進んでおります。新規の恒久施設につきましては、パッシブデザイン、自然光ですとか風ですとか、そういったものを導入するなど、建築物として環境性能の最高評価を達成予定でございます。

また、障がいのある方も一貫してスムーズにアクセスできるよう、駅のエレベーターの増設ですとか、大型化、それから段差の解消、それからアクセシブルな車両の導入などを進めているところでございます。

次のスライド。七つ目は、これは先ほど来御説明させていただいているD&Iの推進でございます。右下に、先ほど申し上げたベストプラクティス賞とシルバー賞を受賞したときの職員の写真が掲げてございます。

次のスライドを御覧ください。八つ目でございます。こちら、調達物品の後利用・再資源化に向けた取組でございます。組織委員会は数千件近く調達していくこととなりますが、調達が本格化する前に財産管理処分規程を策定し、レンタル・リースを最優先させることといたしました。

一例として御紹介いたしたいのが、選手村の宿泊棟に設置するエアコン約1万5,000台につきましては、リースによる調達を行ってまいります。また、ここではリース後の後利用の検討も進めております。

東京大会開催前からリユース先の確保を進め、大会終了後、リユース先に譲渡することで、資源の有効利用とコスト削減を目指してまいります。一部のエアコンにつきましては、東日本大震災で被災した地域の福祉施設等への譲渡を検討しているところでございます。

次のスライドを御覧ください。以上が、目玉の八つの施策でございました。ここからは、報告書の構成に沿って概要を御説明いたします。事前に委員の皆様にはお配りしておりますので、ごく簡単に御説明をさしあげたいと思っております。

次のスライドを御覧ください。本報告書につきましては、イベントサステナビリティのISO20121に即したマネジメントシステムを導入してございます。

また、組織委員会の50を超える部署の全てに、持続可能性の責任者、担当を設置し、運営計画で掲げた目標がしっかり浸透するように努めております。

次のスライドを御覧ください。まず、運営計画で掲げた一つ目のテーマ、気候変動でございます。燃料電池自動車など、低公害・低燃費車両の導入の検討を進めております。

また、施設整備も進んでおり、会場で新規に再エネ設備の建設も進んでおります。

また、削減努力によっても排出してしまうCO<sub>2</sub>を相殺するためのカーボンオフセットにつきましても、先ほど申し上げたとおり、東京都・埼玉県の協力を得て実施を進めることとなりました。

次のスライドを御覧ください。運営計画、2番目の目標、Zero Wasting、資源管理について、でございますけれども、調達物品の再使用・再生利用率99%の目標達成に向け、組織委員会内にガイドラインやシステムを構築しているところでございます。

先般、選手村のケータラーさんが決まったところでございますが、リユース可能な食器導入や、スタッフ向けのお弁当容器などについて検討をしているところでございます。

また、先日、各競技を表すピクトグラムが発表されましたが、分別を促進するためのわかりやすいピクトグラムについても、別途、検討中でございます。

次のスライド。3番目のテーマである大気・水・緑・生物多様性等について、でございます。暑さ対策については、観客向け、ワークフォース向け、アスリート向けの三つの観点から取組のモデルケースを策定したところでございます。

例えば、観客向けには、テント等で日射を遮蔽するとともに大型冷風機を置いて冷却するほか、予防や救護、情報提供などの面でも取組のモデルケースを策定いたしました。今後は、会場別、競技別に取組の具体化を進めてまいります。

また、10月に葛西海浜公園がラムサール条約湿地の登録をされました。ここはカヌー・スラロームセンターの隣接地であり、当初、会場予定地でもあったところでございます。この登録を契機に、野鳥や水生生物等の生息地の保全と人々が海と触れ合える場としての利活用を一層促進してまいります。

次のスライドを御覧ください。人権・労働、公正な事業慣行等でございます。D&Iにつきましては、先ほど述べたとおりでございますので省略させていただきます。

アクセシビリティについても先ほど申し上げたところでございますが、移動のアクセシビリティだけでなく、情報、それから宿泊施設のアクセシビリティなども推進しております。

また、人権相談窓口について、でございますが、日常業務の相談窓口は既に設置されているところでございます。大会時の競技会場における人権問題の把握体制等についての検討はこれからでございます。外部委員も含めたタスクフォースを結成し、検討を進めてまいります。

次のスライドでございます。参加・協働、情報発信について。本日も、また、これまでのディスカッショングループ等でもまだ十分ではないということで、御意見をいただいているところでございます。

IL0と覚書に基づき実施したフォーラムでは、20を超えるスポンサーから、サステナブルな社会の実現に向けたメッセージをいただいたところでございます。また、NGOからも建設的な御提案をいただいております、情報交換、意見交換を行っているところでございます。

メダルについては3月で終了になりますが、今後もレガシーとして残るよう情報発信に努めてまいりたいと考えています。

次のスライドでございます。調達について、でございます。今回は項目として独立させております。

日本では、調達コードのような取組は、特に中小企業を中心にまだ進んでいないところでございます。そのため、事業者の理解、取組を促進するため、解説やQ&Aなどを作成して公表したり、組織委員会職員が個別にヒアリングをしたり、を重ねてまいりました。

また、木材の調達基準についても、見直すべきとの御意見も踏まえ、昨夏から調達ワーキングで議論を重ねて、1月に改定をしたところでございます。

さらに、前に触れた通報受付窓口は、12月までに5件の通報がありました。また、東京都や政府機関もこの窓口を4月に設置しているところでございます。

次のスライドでございます。会場整備につきましても、新たに項目を起こしたところでございます。

恒久会場については、順調に整備が進んでいるところです。建設発生土につきましては、現場内、もしくは工事の間、工事間で利用し、有効利用率は99%以上、また、建設廃棄物の分別の徹底や再資源化の促進を進めておりました、再資源化・縮減率99%以上を達成する見込みでございます。

仮設会場等・オーバーレイの工事に際しては、テント、プレハブ、セキュリティフェンス等につきましては、レンタル、またはリースを前提とした発注を進めております。

また、選手村につきましては、間仕切り等につきまして、段ボール製の扉など、1万カ所を活用する予定でございます。

最後のスライドを御覧ください。今後は、明日の組織委員会の理事会に本報告書につきましてお諮りし、その後、公表を予定しております。また、来年の春、ほぼ1年後になりますけれども、次の大会前報告書を、さらに2020年12月には大会後報告書を公表予定でござ

ざいます。

以上で、持続可能性進捗状況報告書について御説明させていただきました。

ありがとうございました。

○小宮山委員長 どうもありがとうございました。

それでは、これから、今日の非常に重要な議論ですので、御意見のある方はどんどん立てていただきましょう。

それでは、小西さんが一番早かったかな。どうぞ。

○小西委員 ありがとうございます。この調達コードについてなんですけれども、まさに小宮山委員長がおっしゃったように、キラーコンテンツとして、特に脱炭素の取組は非常に進んでいるものができたかなと思っています。リサイクル、鉄リサイクルの話ですとか、再エネとか。

あともう一つ、木材も、最初につくったがゆえに問題が発覚したから見直しをかけたという、このPDCAサイクルもすごく回って、いいふうにきているかなと思います。

先ほどから、やはり体系化したPRということをすごく言って、この中でも重要事項だと思うのですが、そこでいうと、今、やっぱり一番大きな懸念が、調達コード自体にばらつきがあるというところだと思います。

ですので、特に水産が、一番この持続可能性というものが確保されない調達コードになってしまっておりますので、今のままだったら、日本の水産物のほとんどが当てはまるような調達コードになっているのが懸念されています。

この水産コードは、ほかのコードは少なくとも原則で持続可能性を確保というのが入っているのですけれども、水産だけは海の生態系配慮というものの自体の原則がないのです。ですので、資源の管理計画さえあればいいという形になっています。これ、例えていえば、勉強の計画さえ持っていれば、大学に入学させちゃうみたいな感じのものになっております。

○小宮山委員長 わかりやすいね。

○小西委員 まさにそうなのです。ほかのコードは、曲がりなりにもきちんと入学基準があるのですけれども、水産だけは、そもそもこれSDGsの14であるのに、日本の場合、持続可能性は配慮しないと言っているようなものになっています。

ですので、すごく平たく言っちゃえば、これ、例えば漁をするときに、ウミガメとか、アホウドリとか、そういった絶滅危惧種が混獲されてしまうようなものを日本は気にしな

いと言っているようなことに。

○小宮山委員長 1人、3分以内です。

○小西委員 わかりました。

ですので、ぜひ、これは木材に倣って、水産コードは見直しをかけていかないと、先ほど藤野さんがおっしゃったようなリスクになると思います。ぜひ、これはお願いしたいと思います。

○小宮山委員長 非常に重要ですね。

次、枝廣さん。

○枝廣委員 ありがとうございます。続いて、調達コードについてです。今、木材のほうはPDCAが回って改定されたということで、今の報告書にも改定と書いてあるのですが、この改定された今のコードですら不十分だという指摘がNGOから来ております。

なので、1回改定してもうこれで良いのだ、というのではなくて、これは常に進化を目指していくものだと思うので、もしくはそういった対話だと思うのですね。なので、批判されたというよりも、もっとよくなるための対話の場として、まだ不十分だという指摘があるということは報告書に書いていただいて、今後さらなる改善を図るということを明記していただきたいのが1点。

もう1点は、畜産物のほうですね。これも入学基準はあるのですが、非常に緩い入学基準になっております。先月、世界中の150社、畜産物を扱っているところのアニマルウェルフェアの投資家向けのベンチマークが出たのですが、150社のうち日本の企業は5社、5社とも最低ランキングに位置されています。

これはやっぱり変えていかないといけない。日本のレガシーとしても、ですね。そのためにも、やはり調達コード、もう少し進化させていくということを、進捗報告なので、ぜひ入れていただきたいと思います。

以上です。

○小宮山委員長 わかりました。

今のポイントは重要ですね。必ずしも全部やらなくて、できることとできないことはあるわけで、改定しますというメッセージでもいいと思いますよね。

荒田さん、今、何かおっしゃりたいですか。

○荒田持続可能性部長 水産物についても、畜産物につきましても、小西委員も委員になっていただいている調達ワーキングでさまざま議論をしてきて、また、パブリックコメン

トもいただいて策定をしたところでございます。

木材につきましては、2年前に策定したところもあり、また、そこから状況が変わっているというところもありますので、今回、議論を新たにさせていただいたところでございます。

実際、もう調達につきましては、もう食材につきましても、先ほどケータラーが決まっているところもございますので、またこれから改正をするということになりますと非常に現場の混乱を招くことになるかなというふうに考えているところでございます。

ただ、御意見につきましては、NGOの方々からもいろいろ意見をいただいているところもありますので、そこは真摯に耳を傾け、報告書等を書けることについては書いて、残しておけるようにしていきたいというふうに思っております。

○小宮山委員長 ありがとうございます。

間野さん、早退されるそうなので、どうぞ。

○間野委員 すみません、先に順番をいただきまして。

ボランティアも、都市鉱山メダルも大変心配したのですが、順調に来ているということで、調達コードとか、この準備も含めて、本当に事務局の皆さんの努力に敬意を表したいと思います。

一方で、お話を伺っていて、やっぱりどうも局所的、一過的な感じがある。レガシーといたときに、東京都だけでなく、日本全国に広げるということを考えた場合に、我々が今まで集めた知見を、全国の、例えばキャンプ地をやっているホストタウンにもこういうのを伝えて、可能な限り彼らにも努力をしてもらおうと、そういうムーブメントというのでしょうかね、そんなものにつなげていくことも、やっぱり目の前で、もう500日切って大変ですが、せめて情報提供であって、そういったことをして、終わった後に日本全体で発展していくような。

○小宮山委員長 そうですね。

○間野委員 同じことで言いますと、翌年に関西ワールドマスターズゲームズというのが控えていますので、そちらの組織委員会なんかにも得られた知見をどんどん提供して、末永く日本全国で広がりを持てるような準備をしたらいいなと思っているところです。

以上です。

○小宮山委員長 大変これも重要ですね。今おっしゃったのは、とりあえずオリパラに関

係する今の地域に普及させろと、そういう意味ですね。

○間野委員 隣に今日いらしていますけれども、内閣官房とも連携しながら、ここでやっているのが、東京都だからできることということがたくさんあるのですけれども、それも地方でもできるように。

○小宮山委員長 それは、今のオリパラと関係しているところだけでも、という意味ですね。

○間野委員 まずは。

○小宮山委員長 そうですね、わかりました。どうもありがとうございます。

それでは、関さん、どうぞ。

○関委員 ありがとうございます。まず、この報告書なのですが、私も長い間、企業でこういうサステナビリティレポートをつくっていますけど、大変ですね、これ本当にこれだけのものをつくるのは。そういう意味で、事務局の御苦労、本当に大変だったなど、御苦労さまというふうに申し上げたいと思います。

それで、せっかくだつたものなので、これ、報告書というのは出して終わりというふうになりがちなのですが、枝廣さんもさっきおっしゃっていましたが、ぜひ、これをツーウェイのコミュニケーションのツールとして活用していただきたいなというふうに思います。

何か、何でしょうね、こんなふうにやっています、あんなふうにやっています、SDGsと、こう関係していますというようなことをただ放り投げるだけだと、よく最近、SDGsウォッシュというような言葉が言われますけど、グリーンウォッシュと同じことですよね。ただ、一方的に、これをやりました、はい以上おしまい、ということじゃなくて、実際にここまでやれたけれども、例えばこういう課題が残っているというようなこととか、プロセスでこういういろいろな問題があったけれども、それを克服してきたというようなことまで含めて、きちんと開示して、それでステークホルダーとの対話を深めていくというふうに、ぜひ活用していただきたいと思います。

調達基準も、これも結局、日本の中で、ある意味、パイオニア的な役割を担ったのが今回だったと思うのですが、そういう意味では、まだまだ不十分な点があると思います。

このあたりは、報告はまだ機会として2回残されているわけですし、報告書の進化をまた今後見せていくようにしていただきたいと思います。

○小宮山委員長 やっぱり、今おっしゃったことも含めて、情報発信という言葉も何か変



えたいですね。そこが一番遅れているのだけれども、情報発信をしても、聞いている人はほとんどいないのですよ。

大事なことは、ツーウェイ、あるいはマルチウェイで、進化させていくということです。おっしゃったのはそういう意味ですね。

ぜひ、皆さん、お考えいただきたいと思います。

崎田委員、どうぞ。

○崎田委員 ありがとうございます。もう大事なことは、皆さんいろいろ意見を言ってくださったので、一言申し上げると、私、3年ぐらい前から、この持続可能性の検討のところに関わらせていただいて、いろんな提案をしてきました。それで、まずは、メダルプロジェクトのこの都市鉱山メダルがやはり実現したということは本当に素晴らしいことだと思っていますし、それがようやく3月31日で携帯電話など小型家電の回収が終わって、これからはつくる段階になる。

やはり、これは本当に素晴らしいと思いますし、いろんな自治体で、小学生たちが環境学習のテーマにこの取組みを使って発表していることが、すごく多いのですね。

そういう意味で、これからの時期、そしてオリンピックの最中、そしてその後のレガシーとして、やはり非常にキラコンテンツというか、キラリコンテンツとして大事なところですので。

○小宮山委員長 キラリコンテンツ。

○崎田委員 キラーコンテンツと言っていました。平和の活動をしている方に、ちょっとその言い方はつらいなって言われて、それ以来、私は、キラリコンテンツというふうに言っているのですけれども。

こういうような形でしっかり活用していただきながら、大会期間中も皆でその感動を味わえるように、うまく広報していただくというのが大事なのではないかなというふうに思っています。

それで、この2年間ぐらいの間、持続可能性ディスカッショングループとか、資源管理などいろいろワーキングで詳細計画をつくることに関わらせていただいてきましたが、実はさっき発表していただいた、いろいろな目標値というのは、こういう大規模イベントの日本の歴史の中、あるいは、オリンピックの歴史の中で、かなり厳しいというか、高い目標を掲げて準備していただいているというふうに私は思っています。

脱炭素というところも、これからやらなきゃいけない、大変ですけれども。資源管理の

ところも、調達物品のリユース・リサイクル99%なんていうのは、日本の今までの商習慣では、そんなことやったこともないということに、今、挑戦していただいているのですね。

運営時廃棄物は65%のリユース・リサイクル目標というようなことで、いろんな意味で、実は大変高いハードルをしっかりと、組織委員会の皆さんは今チャレンジしつつ、それをISO20121という大規模イベント専用の新しいISOのマネジメントシステムで管理をし、信頼性を確保するという、そういうことを日夜やっていたらという、それには本当に敬意を表したいと思います。

ですから、まず、そういう現実だけは、皆さんが御苦労されているという現実だけは、一言、申し上げておこうかなと思って言いました。

ただし、やっぱりそれが100%うまくいっているわけではないものもあるということで、例えば調達に関して色々な御意見が出ましたけれども、これだけ調達の分野別のルールを決めて大規模イベントをスタートさせるというのも、今までの日本の歴史にはなかったと思いますので、やはりこの今回のオリンピックで、どこまでチャレンジできるかやっていたら、それをいかにレガシーとして、よりよく定着させていくかという、その流れをつくっていくのが大事だと思うのですね。

実は、その流れをつくるのは、組織委員会の方だけではなくて、私たちこの委員会のメンバーだったり、マスコミの方だったり、関わっている全員がそういうレガシーをつくっていく1人の参加者、実施者になっていくことが大事なんじゃないかなというふうに思っています。

ちょっと、一言、そういう感じで申し上げました。

○小宮山委員長 今の指摘は非常に重要で、さっき間野さんからどうやって広げるか、みたいな話もありましたが、組織というのは全部、縦割りなのです。それをどうやって横に連携していくかという非常にいい事例になりつつあるのではないかと思うのです。

だから、今、崎田さんが言ったのもそうだし、間野さんが言ったような、周りに広げるというようなことにも、もう一息、頑張る。そして、それをきちんとレガシーとして残すことと両にらみでやっていきましょう。

森口さん、どうぞ。

○森口委員 ありがとうございます。

大きく分けて3項目申し上げたいと思います。

1項目は、関委員から御指摘があり、小宮山委員長からもお話のあった双方向でという

ことなのですが、今回の進捗状況報告書は、もうこれはまとめて公表される段階にあると思うのですが、やっぱり、これは一方的に出すのではなくて、関係NGOはじめ、さまざまな方の意見を取り入れて、次に活かしていくということが必要だと思います。

次に、大会前報告書を公表されるので、そのときパブリックコメントなんかをやってくださいと申し上げようかと思ったのですが、パブリックコメントだとなかなか間に合わないところがあるので、むしろ今回の報告書に対する御意見をいただいて、次の報告書までの間に改善につなげられるような、そんなプロセスをちょっとお考えいただければと思います。

2点目は、調達の話で、これはもう枝廣委員がおっしゃったことの繰り返しですけども、改定はしたのだけれども、まだまだ不十分な点があるということが、NGOからのいい意見を、我々に意見をいただいております。

それから、今日の報告の中でも、型枠合板について、東京都と共同で現地調査を実施したというようなことが書かれていますけど、その実施した結果がどうだったのかとか、そういうことについても、やっぱり結果をわかりやすく、ぜひ知らせていただきたいと思っています。

3点目は、私が一番近いのは資源管理のところですけども、今日は、ペットボトルを再びペットボトルに循環利用する水平リサイクルの検討とお書きいただいている、これは確かにリサイクルの中では比較的高度なものですけれども、やっぱりより上位のリユースであるとかリデュースについては考える必要があろうと。

この前のDGでも議論になったのですが、真夏のオリンピックということで、やっぱり飲料の供給形態って非常に重要だというのは当初からワーキングでも議論がありました。

マイボトル的なものの利用であるとかこういった……、当然、担当される事業者さんとの関係でなかなか今これ以上のことを書けないのかもしれないけれども、やっぱり水平リサイクルであれば十分だということだけでなく、もう一步踏み込んだ御検討を、引き続き、続けていただければと思います。

それから、目立ちやすいという意味では、選手村の食の問題というのは非常に関心が高いと思いますので、プラスチックと並んで、フードロスの問題は非常にやはり、今、注目を集めているかと思いますが、次のタイミングで具体的に何ができるのか等をぜひ書き込んでいただければと思います。

以上でございます。

○小宮山委員長 ありがとうございます。

では、マリさん、どうぞ。3分以内です。

○マリ・クリスティーヌ委員 つい先日、Journal of Tourism and Hospitalityという研究所があって、彼らが今やっていることは何かといいますと、以前の韓国と、あとブラジルのオリンピックの成果に対する評価を今ちょうど書いて、これから発表されているところですけども、日本もいずれやると。

ただ、その中で、先ほど広報の話がありましたけれども、日本のオリンピックがどれだけ認識されているかという、What you, When you imagine Olympics? What country do you think?、どの国を想像するかという、もうトップはアメリカ、ブラジル、日本は十何位なんですね。それも0.2%という数字で出ているんですね。ですから、もっとPRしなければいけない。

もう一つは、こちらは、一応、私たちレガシーをやっているわけで、それが都市鉱山もすごく素晴らしいと思いますし、もう一つ、私は、これは絶対にもっともっとPRすべきだと思うのは、この聖火リレーを各地域に置くということは、レガシーになるのですね。

なぜかという、オリンピックのIOCのレガシーの手本を見ると、レガシーをオリンピックのためにつくっていて、次のオリンピックもこういうことをしてもらえるようなレガシーづくりの中で、この聖火塔を各県にこうやって飾るということは、日本が初めてになるわけですね。これは、もう一つ、とっても大きなオリンピックレガシーになるので、そういうものをもうちょっと積み重ねてほしいなと思うのと。

あと、ISOのこのイベント、たまたま私が、今ちょうど勉強しているところですが、ISO20121のこのISOは、彼らはその下に、SDGs Goalsは何を掲げているかという、3、5、6、7、8、9、10、11、12、13、16です。ということは、ISOをやっているということは、これだけのSDGsをやっていますよということをうたっているわけですね、ISOのほうの中で。

ですから、こういうものをもっとぜひ取り上げてもらって、いきなりISOがってイベントに出てくるのですけれども、ISOでさえSDGsに対して注目しているわけですから、そういうところはもうちょっと入れてくれるといいなという感じがいたしました。

○小宮山委員長 今、急にいいアイデアを思いついたのだけれども、オリンピックをこれからやろうと思っている国や都市を呼んで、講習会をやる、お金を取って。そうしたら、これこそPRになりますよ。

どうやってPRをやるかということの本気で考えたほうがいいですね。

それでは、野城さん。

○野城委員 今、小宮山先生がおっしゃったことと絡むのですが、大会後のレガシーの担い手になる人たちと対話グループを国内でもつくっていかれることを申し上げたいと思います。

先ほどから皆さん、PRその他ということを言っていますし、それがワンウェイではなく、ツーウェイだとおっしゃるわけですが、どうしてもこの広報、今の従来型ですと、ワンウェイでこういう報告書をつくりましたということで、それで発信されてワンウェイになってしまうのです。皆さんとしては、非常に憎まれ口をたたかれるようなステークホルダーがたくさんいると思いますけど、その中で、その人たちがむしろ、かなり、そのとおりではないのだけれども、大会後もこれを一つのレガシーとしてムーブメントの中心になってくださる方が必ずいらっしゃるはずなので、そういう方々をつかまえて継続的に対話していくということが非常に重要で。

このIOCのほうの事情で、今、小宮山先生がおっしゃいましたけれども、もう引き受け手がなくなるぐらい、オリンピックムーブメント自身がサステナビリティを失いつつあるので、こういう報告書をホストカントリーに出させることで何とか続けていこうというIOCのほうの事情もあるのですが、そればかりで荒田さんたちが非常に苦しい思いをして、非常にもったいないわけでありまして、国内的な意味を持つとすれば、むしろ国内の中で本当にムーブメントが継続していくと、そういう意味では、見解は異なるのだけど、少なくともここで作ったものを対話する相手として真剣にやっていただける自治体とは継続的なダイアログのグループをつくっていくことをぜひお願いしたい。その中に、世界の組織なんかも入ってくるのではないかなと思います。

以上です。

○小宮山委員長 ありがとうございます。

勝野さん、どうぞ。

次、藤野さん。

○勝野委員 まず、調達基準に関しまして、畜産物、水産物についての御意見、私もワーキンググループも参加をさせていただいております、国のほうからもいろんな取組が必要だと思って拝聴しておりました。

ただ、もう調達の段階に今、入ってしまっていて、例えば作物も、お米であれば、今年つく

ったものがもう来年使うという形になっていて、先ほどおっしゃったとおり、もう調達が始まっているという段階なので、じゃあ、どう運用していくか、何を調達するかというところでの工夫ということも必要かなというふうに感じました。

また、ただ、崎田先生がおっしゃったとおり、調達基準が定められたおかげで、随分、例えばGAP認証といったものが全国に認証が広がるとか、日本の基準だったJGAP、ASIAGAPが国際基準に認められるという形で、非常にいい影響を与えているという面もある。この大会があったからこそ畜産物のJGAPもつくられて、今まではアニマルウェルフェアといったことがなかなか注目されてこなかったところを、日本の畜産農家が少なくともアニマルウェルフェアに配慮しなきゃいけないのだということ認識するようになったということ、一歩、二歩ですけれども、進んできているということは評価がされるのではないかなというふうに思います。

また、メダルプロジェクトも、先ほどホストタウンというお話をいただきまして、私もからも、特にホストタウンで協力してほしいという依頼を昨年させていただいたところ、栃木県なんかは全小中学校で回収の取組をやるか、そういった取組を前に進んでやっていただいております。

現在、381の日本の自治体が世界121カ国のホストタウン受け入れますということで交流が進んでおりまして、これも一つのレガシーになっていくだろうというふうに考えております。

食の調達基準も、選手が事前合宿で来たときには、先取りして、練習のときもそういったGAPを取得したものを選手にも提供しましょうというお声がけも、今、してきているところです。

そういった、いい影響を大会が与えているという面もありますということをお紹介させていただくとともに、皆様の問題意識が、より浸透するようというお仕事も、私どもお手伝いしていきたいというふうに思っております。

○小宮山委員長 どうもありがとうございました。

それでは、藤野さん、どうぞ。

○藤野委員 また、脱炭素ワーキンググループ座長をさせていただいている中で、ちょっとカーボンオフセットプログラム、頑張ってるんですけども、ちょうど発表のときがマスコットキャラクターの発表と重なっちゃって、あまりニュースにならなくて、あと、カーボンオフセット自体が若干地味なので、ぜひ目立つような方法を教えていただけ

たらと思います。

あと、再エネ100%もうたっていて、実は、東松島に聖火の火が置かれますけれども、震災後、HOPE電力という再エネ供給もしたりしていますので、せっかくなので、そういう聖火が訪れるところと、もう一回、新たな結び直しみたいなのについて考え直す、またはさらにプッシュするというのとは一つの方法じゃないかと思います。

あと、体系化された発進というか、巻き込みなのですが、ぜひ委員も使ったりとか、関係者をお使いになったりとかしたら良いのではないかなと思います。例えば、今週だと、水、木、金と、アジアのSDGs大会がバンコクで行われまして、私も行きます。

また、7月に国連ハイレベル政治フォーラムがまたありますし、9月は国連総会の中にSDGsサミットが9月24日、25日と、首脳が行きますけれども、そういった機会に改めて東京大会がSDGsにいかに関与しているかというのを、もちろん首脳はトップレベルでもアピールしたらいいと思いますし、7月のそういった国連の大会でも。または今年4月1、2、来週ですけれども、コペンハーゲンで初めて、国連のClimate & SDGs Synergy Conferenceというのが行われるのです。今までSDGsとClimateの13番はあまりリンクしていなかったのですけれども、やっとその大会が行われて、私も行きますけれども、その中でも、ぜひアピールできたらと思っているのですけれども。

そのときに同じメッセージにならないと、みんなばらばらのことを言ったら、それはそれで逆効果になってしまいますので、そこの広報戦略はぜひ、勝野さんもそれに入るところだと思います。私も何かお手伝いできたら、したいと思います。

最後ですが、オリンピック・パラリンピックの三つの、もう一つ、ステークホルダーとして、若者があると思います。先日、オリンピックを学生団体に盛り上げている、おりがみという団体が年次報告会をやって、また場合によって120人の若者がオリンピックをお金ももらわずに盛り上げようとしているメンバーがいるのです。彼らはそういう聖火リレーともリンクした活動をしたいとかという思いもありますので、例えばそういうところをぜひ積極的に活用する。

または、その中で大阪万博とのつながりも何とかしたいというような話もありまして。

○小宮山委員長 3分以内ですからね。

○藤野委員 すみません。なので、そういったところを、ぜひ若者というステークホルダーもお使いになったらと思います。

以上です。

○小宮山委員長 松島先生、お願いします。

○松島委員 私、素人なのですが、さっきから聞いていますと、報告書ですね、報告書ってほとんど、申し訳ないけど、誰も読まないですよ、正直言って。

それで、でも貴重な経験値なので、これは実際につくってみまして、やってみました、買いましたというときに、報告書で終わらせないで、マニュアル化するといいと思いますね。マニュアルとして、やっぱりこの経験値をリユースすると、まず、自分たちが。

マニュアル化するという事は出版することなのですが、それが一つ残って、それで、もし一番残るレガシーで大事なものは、SDGsに対する国民の意識がワンランク上がれば、これは最大のレガシーだと思うのですよね。

ちょっと、何か、マニュアル化するのですが、マニュアル化するって作業をすると、でも、やっぱりマニュアルも読まないですよ。それで、SDGs調達検定というのをやって、これはやっぱり日本人は好きですよ。SDGs調達の専門家ですという検定をすることによって、かなりの数の人がマニュアルを読むのではないかと。そうすれば、全国津々浦々のSDGsの意識が若干上がると。でも、少しでも上がったなら、それが最大のレガシーじゃないかなと、素人ですけれども。

○小宮山委員長 いいですね。やはり、マニュアル化して、次のオリンピックをやりたい人たちの教育、お金を取って。それとSDGs教育です。これはいいね。

それでは、田中さん。3分以内でお願いします。

○田中委員 短めにいきます。

ちょっとボランティアについてなんですけど、昨日、ちょっと実は大手のスポーツ学部の2年生の方と話したら、ボランティアを締め切ったことを知らなかったようなのです。海外の方と、この間、ちょっといろいろとスポーツのオリパラの話をしたときも、ボランティアを締め切ったことを御存じなかったようですね。

すごく多くの募集が来ているということは大変うれしいと思うと同時に、先ほどからおっしゃられている小宮山先生のそのPRの問題も含めてなんですけど、その人たちを放しちゃうのはもったいないなと思っていて。例えば、競技団体とかと話すとき、もう本当にメジャーな競技団体は良いのですが、マイナースポーツの競技団体は、結構、人材不足にいつも悩んでいたりとか、あと、間野先生がおっしゃっていた次の大会との連携だったりとか、こういう大会もあるよだとか、そういう人材を、何かこう、ボランティアを締め切りました。さようなら、じゃないような仕組みをつくれれば、先ほどのおっしゃる仕組みとい



うものにもつながってくるのではないかなと思っています。

やはり終わった後も大事で、先ほどちょっとメディアの映画の話にもちょっとつながってくるのですが、大会前のPRも大事だし、大会中のPRも大事ですけど、大会後も、やっぱり東京はよかったよねって言ってもらえるようなPRを残せるためには、やっぱりこういったシステム化とか、報告書の中身の重要性だと思っています。

すみません、ちょっとしつこいように申し訳ないのですが、この会議で何回も聞きました、報告書の名前にぜひ「オリンピック」と「パラリンピック」を名づけて。これ何回も言っていて、いつもオリンピックだけなので、そこもぜひ、こういったところも東京が終わった後のPRになるのではないかなと思っています。よろしく願いいたします。

○小宮山委員長 どうもありがとうございました。

それでは、小西さん。2回目だから、2分以内で。

○小西委員 2分。ありがとうございます。30秒で頑張ります。

先ほどの荒田さんのお言葉ですけれども、やっぱり木材って、早くに調達されるから問題が発覚して見直しがかけられた。水産物、食料というのは大会のときかけられるので、もうまさに今から調達が始まる今に、やっぱり問題点があることを周知しないと、逆にオリンピックの直前とか、オリンピックの最中に問題が発覚して、せっかくここまでやってきた調達コードが、水産コードがあまりにも出来の悪いものになってしまうがゆえに、東京オリパラ大会のリスクを負うというのは非常に残念だと思います。

ですので、ここはやっぱりPDCAサイクルを回すということがもともと決まっているのですから、水産コードはきちんと見直しをかけていただきたいと思います。

○小宮山委員長 はい。ありがとうございました。

それでは、杉元さん。これで最後にします。

○杉元委員 私、1回目の。

○小宮山委員長 1回目だから3分でいいです。

○杉元委員 こういう取組、都市鉱山も、木材の話も、鉄の話も、今までこんな議論がなされているとは、実はわかりませんでした。私はびっくりするぐらいの御議論をされているのだというのがわかりました。なので、これはまさにPR、伝えるというのが必要だということを改めて感じたところです。

そういう中で、今、ホームページも見てみましたが、つくり方はもうちょっと工夫の余地があるかなとも思います。

あと、あと1年ぐらいの中で、PR線表みたいなのをもうちょっと作り込んでいけばいいのではないかと思います。感想でございますけれども、1回目の参加でございますので、思いましたということです。

○小宮山委員長 大変ありがとうございます。

今日は、個別でも大変重要な意見が出ておりますので、ぜひ、事務局にはもう一息お願いしたいです。

皆さんがおっしゃっているのは、この報告書が無意味だといっているわけでは全くなくて、その反対、これは極めて重要なものです。これがやはりコンテンツ、核なのです。ただ、これをどうやって、本当にレガシーにするのだ、PRにするのだ、情報として皆さんに発信するのだと、そこを議論しているのです、ぜひお間違いのないように。

これをどうやって利用するかということを考えないと、今までと同じで、報告書はつくったけれど、極論すると、読む人がいないと。つくった人しか勉強にならないということになりますので、ぜひ、ここを本当に議論しましょう。ホームページも重要だし、映画も重要だけれど、それだけじゃだめです。ここを、ぜひ、これからの我々自身の宿題にしていきたいと思えます。

それでは、以上をまとめとしまして、事務局から、今後の事務連絡等につきましてお願いいたします。

○野上アクション&レガシー担当部長 本日は貴重な御意見を多数いただき、ありがとうございました。

本日の議事の内容につきましては、事務局から皆様への御確認の上、議事録を作成いたします。後日、御確認をいただき、ホームページ上で公表いたしますので、よろしく願いいたします。

なお、次の委員会でございますが、また、別途、御連絡等をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事務連絡は以上でございます。

○小宮山委員長 それでは、第9回街づくり・持続可能性委員会はこれにて終了とさせていただきます。どうも、皆さん、大変ありがとうございました。